

日曾利橋

伊那谷は山が険しく天竜川も急流だったので昔の物資運搬は陸上のみならず川を利用しての運搬も大変なことだった。そこで活躍したのは通船と渡船であった。日曾利には渡船場と船渡^{とせんば ふなと}があり船宿もあった。江戸時代から明治時代にかけて多くの人が船を利用して香坂家を訪問していたようである。

『日曾利には、渡船場と船渡があり船宿もあったとのことである。日曾利にとって、天竜川は非常に大きな役割を果たしていたが、明治43年に初めて日曾利橋が架けられた。『日曾利耕地史』によると、香坂六郎が企業者となり、日曾利耕地総会へ橋梁架設問題を提案した。この橋の総工費は1830円で、出資は、耕地全戸と香坂六郎の特別出資であった。そのほか、無尽、立木の売却、村外寄付などによって調達された。借入金の返済は、橋銭の収入金を充てることにし、明治43年11月起工し、明治44年3月に完工した。私設橋のため許可を得て、一定の賃銭表によって通行人から橋銭を徴収した。』『日曾利橋』飯島町誌下巻」

(川端紅葉著 2026・3・4)



「日曾利橋」 ©2017.8 川端紅葉